

愛媛県松野町の文化的景観調査

上杉 和央

愛媛県松野町では、現在、町内の奥内地区について国の重要文化的景観の選定を目指し、価値の調査がなされている。筆者は松野町の文化的景観調査指導委員会委員として、平成23年度より継続的に調査に携わってきた。実際の調査については、本学の大学院生・学部生も積極的に参加し、奥内地区の「地域らしさ」の解明にともに取り組んできた。

計画のなかで、実際の調査は平成26年度を最終年度と位置づけている。そのため、本年度は、①平成25年度までになされた調査のまとめと不足を補う調査、②奥内地区の住民の景観認知調査の、2点に重点的に取り組んだ。

なお、本年度の調査においては、島本多敬（文学研究科史学専攻修士2回生）、近藤裕子（文学部歴史学科4回生）、平野友梨（同前）が参加した。

1. これまでの調査のまとめと補足調査

松野町奥内地区の文化的景観についての調査は、平成23年度より実施してきている。そのなかで明らかにしてきたのは、地域の土地利用、棚田の分布、石垣の高さ、土地所有分布、水利網、信仰形態、山の利用、営農方法、集落組織、地名、食文化、石造物といった点である。これらの解明に当たっては、愛媛県立図書館に残る江戸時代および明治時代の土地台帳、松野町役場に保管される明治時代の地籍図といった資料の収集と、現地での景観調査、聞き取り調査でのデータ収集が必要である。

今年度は昨年度までに収集した資料・データをもとに奥内地区の文化的景観の特質を抽出していったが、その過程で不足している資料・データが見つかった。そのため、2度にわたって補足調査を行った。

第1回：平成26年8月26～28日

調査者：上杉・近藤・平野

調査内容：奥内地区にて墓の建立年代の再調査、食文化についての詳細調査、民俗の聞き取り調査

第2回：平成27年1月24～25日

調査者：上杉・平野

調査内容：愛媛県立図書館にて江戸時代・明治時代の土地台帳の確認

これらの補足調査の結果、文化的景観の価値を理解するうえで必要な調査のうち、歴史的観点からの調査、および生活・生業的観点からの調査について、大筋において調査を終えることができた。

その成果を踏まえ、調査報告書の筆者担当分を執筆し、松野町に提出した。調査報告書は来

年度に刊行の予定である。

2. 景観認知に関するワークショップの開催

文化的景観の価値は、地域の外側に居住する研究者や行政担当者だけが把握するものではなく、地域の内側に居住する住民が強く意識するものでなければ、十分な保全・活用を期待することができない。そのため、住民の景観認知や地域把握に関する調査は不可欠である。

奥内地区では15年前に、『ふるさと発見！奥内棚田の里』と題されたワークショップが開催され、そのなかで地域の魅力を発見する試みがなされた経験を持つ。そこで、この15年前の内容を振り返り、15年間での異同を確認しつつ、改めて「奥内らしさ」について話し合うワークショップを開催することにした。

日時：平成26年8月26日（火） 19：00～21：00

場所：奥内公民館

調査参加者：上杉・近藤・平野

※ほかに愛媛大学法文学部人文学科の井口梓准教授と学生2名も参加した。

ワークショップの結果、林道が整備されたこと、高齢化が進行したことといった違いが確認されたほか、15年前ないしそれ以前から続く奥内地区の自然とともに集落が一つとなって生きていく生活の在り方が最大の価値であることが確認された。

このワークショップの成果も、来年度刊行の調査報告書に反映される予定である。



ワークショップの様子（平成26年8月26日）



愛媛県立図書館での調査（平成27年1月25日）